

## 平成 23 年度 第 1 回京都市上下水道事業経営評価審議委員会議事録

日 時 平成 23 年 1 月 14 日 (月) 午前 10 時 30 分～正午

場 所 京都 J A 会館 (京都市南区)

出席者 (五十音順、敬称略)

### 1 委員

越後 信哉 (京都大学准教授 (大学院工学研究科))  
西村 文武 (京都大学准教授 (大学院工学研究科))  
野上 幹夫 (社団法人京都工業会理事・事務局長)  
林 しげみ (上下水道サポートー)  
前岡 照紀 (税理士)  
水谷 文俊 (神戸大学教授 (大学院経営学研究科))

### 2 京都市

管理者、次長、技術長、総務部長、総務部経営改革担当部長、  
総務部お客さまサービス推進室長、技術監理室長、水道部長、下水道部長

○事務局 (総務部総務課)

次第

### 1 開会

- (1) 京都市あいさつ
- (2) 委員及び上下水道局出席者の紹介
- (3) 委員会設置要綱について
- (4) 委員長・副委員長の選任
- (5) 委員長あいさつ
- (6) 会議の公開等について

### 2 上下水道事業に関する報告

- (1) 平成 22 年度上下水道事業決算概要について
- (2) 水に関する意識調査結果について

### 3 経営評価等に関する報告

- (1) 平成 23 年度京都市上下水道事業経営評価について (企業改革プログラムに関する報告を含む。)

(2) 京都市上下水道事業経営評価審議委員会意見を踏まえた改善について

- 4 経営評価等に関する審議
- 5 今後の予定等
- 6 閉会

内容

1 開会

(1) 京都市あいさつ

公営企業管理者上下水道局長 西村 京三

(2) 委員及び上下水道局出席者の紹介

(3) 委員会設置要綱について

京 都 市： 資料の説明（資料1）

(4) 委員長・副委員長の選任

- 委員互選により水谷委員を委員長に選任
- 水谷委員長の指名により西村委員を副委員長に選任

(5) 委員長あいさつ

水谷委員長： この審議委員会の委員について、半分の方は新たに就任いただいた。21年度～22年度にも、それぞれの立場から忌憚のない意見を頂いて、京都市の上下水道の経営に有益であったものと考えている。今年度については、先ほど管理者からも話があったが、新たに上下水道料金制度の審議も同時に並行して行っている。上下水道事業については、京都市以外にもいろいろ多くの課題を抱えている。皆様には是非、それぞれの立場から新たな意見を言っていただきたい、委員会として、京都市の上下水道事業経営に貢献できるような意見を出していきたいと考えている。

(6) 会議の公開等について

事 務 局： 資料の説明（資料3）

水谷委員長： 本日の会議は公開とし、議事録については、後日公表することとする。

2 上下水道事業に関する報告

(1) 平成 22 年度上下水道事業決算概要について

事務局： 資料の説明（資料 4）

(2) 水に関する意識調査結果について

事務局： 資料の説明（資料 5）

越後委員： 22 年度と前回の 17 年度を比較すると、水質であったり、全体的な評価も概ね改善しているように見えるが、技術的に何か理由があるのか。

京都市： 前回の 17 年度と比較して、水質に関する評価が非常に上がっているという結果が出ている。一つには琵琶湖の水質が比較的安定していることがある。また一方、私どもの水質監視体制又は浄水処理の監視管理体制についても非常にきめ細かく行っており、それが良い評価に結び付いたのではないかと考えている。ひとつには、臭いの物質が水質基準値に加えられており、非常に厳しいコントロールを行い、市民の皆様に臭いを感じさせないようにしている。塩素濃度についても、きめ細かく、市内一円でコントロールし、できるだけカルキ臭がしないように努めている。クリプトスボリジウム等の病原性生物に対する対策としても、濁度の管理を厳密に行っている。

野上委員： この意識調査は一般京都市民の方にしたものか。事業者には行っていないのか。

事務局： 市民に対してである。

越後委員： このアンケートの回答者の年齢分布と京都市の実際の年齢分布についてはどうなっているか。一般的にこういった調査では、高齢の方が熱心に回答し、学生などはあまり回答しない傾向にある。実際の年齢分布に合わせた補正が必要かと感じる。

京都市： 今回の年齢分布については、20 歳代が 7 %, 30 歳代 14 %, 40 歳代が 15 %, 50 歳代が 15 %, 60 歳代が 25 %, 70 歳以上が 22 % であり、60 歳代及び 70 歳代の方が多い傾向が出ている。この分布については、前回の 5 年前に実施した調査とほぼ同じ傾向となっている。

西村副委員長： このアンケートはどこに住んでいる方の回答かということは分からぬのか。地域性によって大きく変わるとと思うが。

京都市： 資料編の 12 ページに回答者の属性という項目がある。そこでは回答者がどういう立場であるのかということを聞いている。年齢のほか、居住地、世帯人数、家族構成、居住年数、居住形態、水道の用途及び給水方法についてのデータは得られているので、属性ごとに集計することはできるが、そこまではしていない。

林委員： 回収率が 41.9 % となっているが、催促はしないのか。ただ封筒で送るだけなのか。

京都市： 今回は郵送で得た回答だけで、特に督促は行っていない。ただし、今回は前回と異なり、回答率を上げるためのインセンティブとして、回答を頂いた方には抽選で疏水物語やトライフィカ京カードをプレゼントすることとした。それらの取組により、回答率は前回からは2%ほど上がっている。

越後委員： 今の質問についての補足だが、この回収率は、類似の調査と比較すると極めて高い回答率である。通常、事業体が行うと、上手くいくパターンで3割～4割くらいであり、大学が行うと2割くらいのこともある。従って、年齢補正を適切にすれば、統計学的には十分な価値を持つものである。

### 3 経営評価等に関する報告

(1) 平成23年度京都市上下水道事業経営評価について（企業改革プログラムに関する報告を含む。）

事務局： 資料の説明（平成23年度京都市上下水道事業経営評価（本冊、概要版）、資料6）

(2) 京都市上下水道事業経営評価審議委員会意見を踏まえた改善について

事務局： 資料の説明（資料7）

### 4 経営評価等に関する審議

前岡委員： 素晴らしい冊子ができているが、印象としては総花的な内容であり、取組項目評価は5段階でAとBのみと高い評価になっている。評価の基準値が適当なのかどうか、どう計られているのか。

京都市： 経営指標評価は、水道事業者、下水道事業者が参加している全国的な組織である日本水道協会、日本下水道協会が制定しているガイドライン指標に基づいて、京都市の状況を前年度、大都市と比較しているものである。ガイドライン指標はISOでも承認されている。

取組項目評価は、日常業務を102の項目に整理区分しており、参考資料として席上に配布している「事業推進方針」において毎年度の目標を策定しているが、その年度の達成状況を自己評価しているものである。

越後委員： 単年度の目標の達成状況を評価していることは認識しているが、例えば、概要版5頁の「異臭味問題解消のための高度浄水処理施設の整備」の「A」を見ると、市民としては「整備ができた」という印象を持つてしまう。しかし、内容は単年度の目標である「工事の設計」が完了しただけである。評価としてはそれでいいのだが、見せ方としては、上下水道事業の全体の構想を細分化し、当該年度のステップはきちんと完了した、という方が親切であり、分かり易い。

京都市：取組項目評価は、10年の長期計画、5年の経営計画を、単年度ごとに達成するために、毎年度計画を立て、予算化し、実施していく、という我々の仕事の進め方の結果が、各年度でどうだったかということを市民に理解してもらうことを主に行っている。御指摘のとおり、施策の全体の評価、という部分にどこまで取り組めるか課題と考えており、工夫をしていく必要はあると考えている。

水谷委員長：2点申し上げたい。1点目は、先ほど水に関する意識調査の報告において野上委員からも発言があったとおり、一般家庭の御意見は事業運営の参考にされていると思うが、京都市は料金制度の審議も開始したところであり、大口需要者である企業等の御意見も参考に事業を進める必要があると思う。従って、経営評価においても、市民へのメッセージだけでなく、企業等へのメッセージを発信するものとしていく必要があると思う。

2点目だが、先ほどの質疑であった「事業推進方針」の目標はどんな内容になっているか。

事務局：皆さまのお手元にある青色の封筒に、平成22年度事業推進方針を準備している。4ページにあるように、まず一番左が102の各取組項目となっており、その右側の欄に事業計画、そのもう一つ右に目標水準を定めている。例えば、一番上の「水源から蛇口までの水質管理の強化」という項目の目標水準は、「蹴上浄水場において水安全計画を策定」等となっている。

各項目に、このような形で目標を設定して事業を進め、その結果を取組項目評価として報告している。

水谷委員長：今まで、こういったことについては、本委員会で議論の材料としたことはないが、例えば、目標水準が、客観的で分かりやすいものとなっているか、ということについても、この場で議論してもよいのでは、と思う。これ以外にも、先ほど越後委員からも意見があったが、経営評価本冊子（86頁、87頁）上、中長期目標と現時点での進捗状況についての資料は改善されているが、中期経営プランの計画期間は平成24年度までと、残り期間も少なくなる中で、更に達成状況など分かりやすく示す方法を考えていくということも今後の議論の題材の一つかと思う。

次回の審議委員会では、このようなことを中心に議論してはどうかと思うが、委員の皆様の御意見はどうか。

特に御意見がないようなので、次回はそういったことを中心に議論をしていきたい。

本日の論点を簡単に整理する。1点目は、評価全体の話であるが、総花的な印象との御意見があった。経営評価の内容として、京都市の状況を大都市との比較やガイドライン指標との比較を基にした経営指標評価と、単年度の

取組を評価する取組項目評価をしているとの説明があったが、これらが分かりやすい評価となっているかどうかということである。

2点目は、上下水道の使用者の多くは市民であるが、大口需要者の意見も踏まえ事業を行っているはずであり、評価についても市民だけでなく、大口需要者である企業等にも目を向けた内容となっているか、ということである。

3点目は、単年度の目標及び達成状況が、中長期の目標に対して分かりやすいものとなっているか、ということである。

## 5 今後の予定等

水谷委員長： 次第の5、今後の予定等について、事務局から説明をお願いする。

事務局： この経営評価審議委員会については、今年度、今回を含め3回開催する予定としている。事前に各委員の皆様と調整させていただいているが、12月中旬に第2回委員会を開催する予定としており、水谷委員長から発言のあった内容を中心として経営評価制度の充実について引き続き御審議をお願いしたいと考えている。

また、来年1月頃には第3回委員会を開催し、経営評価等に関する意見の整理をお願いしたいと考えている。その後、意見書として上下水道局に提出いただき、当局としては、これを公表していくことを考えている。

水谷委員長： 次回の委員会は12月中旬に開催予定ということであるが、事務局から改めて開催日、開催場所、開催時刻を委員の皆さんには通知する。

以上で本日の委員会を終了する。

## 6 閉会